トピック(テーマ)			米騒動
ねらい			明治時代後半になると資本主義の発展によって労働者が増加し、都市に人口が集中するようになり、米の需要が増大していった。一方、寄生地主下の小作経営は農業生産力の伸びは小さく、さらに政府は寄生地主保護のため外米輸入関税の撤廃ができず、食糧不足に陥りやすかった。ロシア革命が起こり、これへの軍事干渉としてシベリア出兵が行われ、米価値上がりを見越した米商人・地主の投機は米価騰貴に拍車をかけた。こうして大正7年7月18日、富山県魚津町から始まった米騒動は瞬く間に全国に拡大し、全国497市町村で騒動が勃発した。長野県では8月17日、県下で唯一の米騒動が長野市で発生している。米騒動は自然発生的な大衆運動であったが、短期間に全国へ拡大し、これ以後の普通選挙運動、農民運動、婦人・青年運動、部落解放運動、社会主義運動へと各方面へ民衆運動が拡大していく契機となった。政府・支配層にとっても治安維持対策により一層注力していくことになった。
キーワード			米騒動　米価騰貴　米の廉売　富山県魚津町　寄生地主　第一次世界大戦　シベリア出兵　長野市の米騒動
概要を知るためのツール	1	書名	長野県史　通史編　第8巻　近代2
		著者名	長野県史刊行会
		出版社	信毎書籍
		出版年	1989.3.31
		内容紹介	長野県下の飯田町(飯田市)、松本市、長野市、上田町(上田市)、飯山町(飯山市)、赤穂村(駒ヶ根市)、須坂町(須坂市)、稲荷山町(千曲市)の事例が紹介されている。広く県下の状況を知ることができる。
資料リスト	1	書名	長野県政史 第2巻
		著者名	長野県
		出版社	第一法規
		出版年	1972.3.31
		内容紹介	明治末から昭和初年の長野県の人口の推移、社会構造の変化、経済と県民生活などの分析を背景に米騒動の経緯や原因について叙述している。また、県政の対応として内帑金(天皇の手元にある資金)の下賜、外米配給費の支出、救済金の募集と米の廉売制度、収用米移出問題、校地整理と節米運動などをあげている。
	2	書名	長野県近現代史論集
		編者名	上條宏之／ 監修　　長野県近代史研究会／編
		出版社	龍鳳書房
		出版年	2020.10.14
		内容紹介	「長野市街地の都市化と米騒動」 長野県下各地で米価騰貴による不穏な状況の下で、米騒動に発展したのは長野市だけであった。明治後半から大正期の長野市市街地の都市化と米騒動の因果関係を究明した論考である。長野市の米騒動における米価廉売の歳入出決算書の全体が明らかにされている。騒動後の市政の動向にもふれている。

	3	書名	長野県史　近代史料編　第8巻　社会運動　社会政策
		著者名	長野県史刊行会
		出版社	信毎書籍
		出版年	1984.10.31
		内容紹介	大正期社会政策 ・所持米売惜取締に関する県 ・細民救済御下賜金郡別分配報道記事 ・上水内郡役所宛同郡芹田村長　米価騰貴による騒擾未然防止手配につき回答 ・米価暴騰騒擾につき民心安定方県訓令 などの史料を収録している。
	4	書名	長野県行政文書目録　行政簿冊1　明治大正編
		著者名	長野県立歴史館
		出版社	長野若槻園　コロニー印刷
		出版年	1994.11.3
		内容紹介	大正7年 「米価暴騰ニ依ル救済外国米廉売関係」(全4冊) 窮民救済資金収支調、救済を受けた戸数人口調、米価廉売関係の第一次史料が収録されている。研究論文を作成するには欠かせない史料である。
雑誌	1	論題名	民力涵養運動の社会強化的特質 ー長野県下高井郡瑞穂村の事例を中心にしてー
		著者名	天田邦子／著
		雑誌名	上田女子短期大学　紀要
		出版年	1976.3
		巻号頁数	4-5,1-23
インターネット	1	サイト名	長野県市町村史誌目次情報ネットワーク
		URL	http://misuzu-mokuji.net/
		概要	市町村史誌の目次に米騒動に関する項目が多数ヒットする
新聞	1	発行機関	信濃毎日新聞
		年月日	大正7年7～8月を中心に米騒動に関し、全国各地・県内の記事が多数掲載されている。